

国立西洋美術館 託児サービスのご案内

企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」出品作家の田中功起氏のプロジェクトの一環として、本展開催期間中、下記の日程で託児サービスを実施いたします。小さなお子様連れの方も、この機会にぜひゆつくり美術館をお楽しみください。

実施日	予約可能期間
2024年3月12日 (火)	2月12日(月)～3月8日(金)
3月13日(水)	2月13日(火)～3月8日(金)
3月16日(土)	2月16日(金)～3月13日(水)
3月17日(日)	2月16日(金)～3月14日(木)
3月21日(木)	2月21日(水)～3月18日(月)
3月22日(金)	2月22日(木)～3月19日(火)
3月27日(水)	2月27日(火)～3月22日(金)
3月28日(木)	2月28日(水)～3月25日(月)
3月29日(金)	2月28日(水)～3月26日(火)
4月2日(火)	3月1日(金)～3月29日(金)
4月3日(水)	3月1日(金)～3月29日(金)
4月10日(水)	3月8日(金)～4月5日(金)
4月11日(木)	3月11日(月)～4月8日(月)
4月17日(水)	3月15日(金)～4月12日(金)
4月18日(木)	3月18日(月)～4月15日(月)
4月24日(水)	3月22日(金)～4月19日(金)
4月25日(木)	3月25日(月)～4月22日(月)
4月27日(土)	3月27日(水)～4月24日(水)
4月28日(日)	3月28日(木)～4月25日(木)
4月30日(火)	3月29日(金)～4月26日(金)
5月1日(水)	4月1日(月)～4月26日(金)
5月2日(木)	4月2日(火)～4月29日(月)
5月8日(水)	4月8日(月)～5月2日(木)
5月9日(木)	4月9日(火)～5月2日(木)
5月10日(金)	4月10日(水)～5月7日(火)

●託児実施場所

国立西洋美術館
地下2階講堂

●ご利用いただける方

当館常設展または企画展の
チケットをお持ちの方

●実施時間

13時～16時

※受付とお迎えの時間を含みます

●ご利用料金(税込)

0歳～1歳…2,000円

2歳～6歳…1,000円

●ご利用方法

事前予約制となります。

お電話または予約フォームより
お申込みください。

株式会社明日香

TEL 0120-165-115

予約フォーム

下記QRよりアクセスください



お電話受付時間

平日10:00～17:00

(12:00～13:00を除く、

土日祝休)

ホームページ

<https://www.g-asuka.co.jp>

美術館へのプロポーザル 2 乳幼児向けの託児室を設ける 田中功起

3歳のぼくの娘にとって、ベッドでの絵本の読み聞かせは就寝前のルーティーンになっている。ぼくは毎日、だいたい2、3冊の絵本を読んでおり、絵本を読むことはぼくの育児の日常でもある。だから、美術館に提案した託児室には娘の好きな絵本たちが並んでほしいと思った。育児は平均値をかき乱す経験の連続だ。もちろん子どもの発達段階には共通点があるし、育児をめぐる多くの知恵には使えるものがある。しかしそれでも育児は個別的だ。一人ひとりの子どもに対してどんな手法が使えるか、何が使えないかは違う。彼女の絵本の好みも他の誰かと同じとは限らない。だから、この絵本のセレクションにはいまの娘の個性が表れているはずだ。もちろん、そのセレクションにはぼくと妻のディレクションも含まれているから、そこに表れる個性は、彼女だけのものではなく、集団的なものかもしれないけど。

そう、美術館のロビーに、託児空間をつくる提案をした。

ここからはぼくの認識不足の話でもある。美術館に託児室を設けるアイデアが浮かんだとき、教育普及の担当者に話をするべきだと思った。なぜなら託児も教育をめぐるものだと思うからだ。しかし教育普及の担当者からは、託児サービスは施設、設備、来館者サービスに関わるため、当館においては総務が担当している、と反応が返ってきた。ぼくは最初、それが何を意味するのかわからなかった。託児は、子どもを一時的に預け、親が育児から解放されるサービスだ。それは、親が展覧会を鑑賞するためのものだ。つまり、託児サービスを親の鑑賞のためのラーニング・プログラムとして捉え直すことはできないだろうか。なぜ美術館では託児サービスが少ないのだろう。美術館が行う子どもの学びのためにキッズ・プログラムがあるいっぽうで、乳幼児を抱える親のための学びはなぜ排除されるのだろう。

乳幼児を抱える親はなかなか美術館に来るのが難しい。子どもからは常に目を離せないし、わめくし、走り回るし。だから子どもと一緒に展示をゆっくり見ることはできないし、まして、そこに掲示されている作品の背景について書かれているテキストなんて落ち着いて読んでられない。あなたが読んでいるこの短文でさえ、読むのは難しいだろう。

でも親も展覧会が見たいはずだ。子どもと一緒に展覧会を見たあと、もう一度ゆっくり自分たちで鑑賞したいときもあるだろう。だから託児室を設けるか、一時的な託児サービスを美術館が検討するのはそれほどおかしなことではないはずだ。

託児サービスで使用するクッションの製作は埼玉県川口市周辺に暮らす在日クルド人コミュニティの女性たちに頼むことにした。クッションカバーの布は、縫製をお願いしたギュライさんを選んでもらった。半分は伝統的なキリム、残り半分は日本の裁縫ショップで販売されている布が組み合わせられている。日本でクルド人女性による社会参加の機会は乏しいと聞く。このような製作を依頼することで、彼女（たち）の社会参加がこれからも増えていけばいいと思う。

かがくいひろし「だるまさんが」、エリック＝カール「はらぺこあおむし」、サトシン、西村敏雄「わたしはあかねこ」、村山籌子、村山知義「3びきのこぐまさん」、いましろたかし「あそこまでいってみよう」、バージニア・リー・バートン「ちいさいおうち」、マレーク・ベロニカ「ラチとらいおん」、ジュディス・カー「おちやのじかんにきたとら」、マレーク・ベロニカ「ポリボン」、マレーク・ベロニカ「くさのなかのキップコップ」、ザ・キャビンカンパニー「ねんねこ」、にしまきかやこ「わたしのワンピース」、荒井良二「ねむりひめ」、ジャン・ド・ブリュノフ「ぞうのババール」、五味太郎「ねえ おはなししてよ」、シャーロット・ゾロトゥ、パメラ・パパローン「おはよう・おやすみ」 参考：田中遡原絵本セレクション